

第1回三次市観光戦略策定検討委員会 議事要旨

■日 時	令和5年8月1日 13時25分～15時20分
■場 所	三次市役所本館6階601会議室

■名簿(敬称略)		
策定委員	所属・役職	出欠の有無
富川 久美子	広島修道大学商学部 教授	○
永江 博之	(一社)三次観光推進機構 専務理事	○
八谷 尚幸	三次商工会議所 専務理事	—
中宗 久之	三次広域商工会 事務局長	○
玉垣 雅史	(一社)広島県観光連盟 インバウンド事業部長	○
平田 真一	有限会社平田観光農園 取締役社長	○
實兼 利光	備北交通株式会社 取締役統括本部長	○
池田 美咲	三次グランドホテル 支配人	○
角佛 里英	みよしアントレーヌ	—
岡田 アントニールイス	株式会社なちゅ bio 取締役	○
野々原 ゆか	三次観光アンバサダー	○
事務局		
中廣 晋	三次市産業振興部長	
押谷 水砂	三次市産業振興部商工観光課長	
小山 知秀	三次市産業振興部商工観光課観光振興係長	

■議事次第

1. 開会
2. 委員委嘱・委員長選任
3. 報告事項
 - (1) 観光戦略改定の狙い
 - (2) 三次市の観光の現状
 - (3) 観光戦略策定スケジュール
 - (4) みよしDMOの活動
4. 話題提供
 - (1) インバウンド観光の動向について
 - (2) 体験型観光の動向について
 - (3) SNSによる情報発信について
5. 意見交換
6. その他
7. 閉会

■議事要旨

1. 開会

2. 委員委嘱・委員長選任

- (1) 委員及び事務局の紹介
- (2) 委員委嘱
- (3) 役員選任 ・委員長に富川久美子委員，副委員長に永江博之委員
(委員長により以下の議事を進行)

3. 報告事項

- (1) 観光戦略改定の狙い
- (2) 三次市の観光の現状
- (3) 観光戦略策定スケジュール

4. 話題提供

「インバウンド観光の動向について」，「体験型観光の動向について」，「SNS による情報発信について」，それぞれの専門家からの話題提供。

5. 意見交換

(委員)

- ・提供された情報のインプットを委員会でアウトプットできればよい。四半期ごとに20～30本のコンテンツ開発など，注目する内容であった。
- ・現在，体験型コンテンツの展開やインバウンドを積極的に取り組もうとしており，DMO に紹介いただいた台湾の観光客に対し体験型コンテンツを実施した結果，今後，インバウンドは伸びると実感している。

(委員)

- ・コロナ禍での利用客減少に対し，運賃割引の商品を提供した結果，個人客の増加がみられ，今まで聞かれなかった二次交通に関する質問が多くなった。このようなことを踏まえた，新たな商品開発にも取り組んでいる。
- ・三次市に家はないが，墓掃除に帰るといった個人の客も多くみられる。帰郷した方々に観光してもらう「田舎に帰ろうツアー」も商品になるのではないかと考えている。

(委員)

- ・ホテルの観光活動には制限も多い。
- ・担当を兼務している東広島市に比べると三次市は観光が充実している。もっと活用して，付加価値をつけることが重要である。
- ・コロナ後，宿泊客が一気に増えてきて，人の対応がついていけない。また，宿泊費は値上がりしている。
- ・三次もののけミュージアム駐車場や，みよし遊びの王国の利用にお金をとってよいのではとの声もある。また，スポーツ観光など，もっと強みを出していけば観光的にも魅力が出るのではないかと考えている。

(委員)

- ・10年くらい前、地域おこし協力隊のときから住んでいる。今では当たり前ということがたくさんあるが、今回の提供情報を踏まえて、当たり前のことを魅力的なものに変えていくことを、自分の中で考えてみたい。
- ・事業の一環としてクラフトビールの醸造、販売を行っているが、この事業も含め、知り合った様々な人たちと一緒に、宿泊を伴う観光に”努力”をかけあわせていけるように協力していきたい。

(委員)

- ・自分ができることとして、SNSで情報発信することである。
- ・市外に住んでいるが、どれだけ三次のファンとして活動できるのかが大切だと感じた。
- ・発信に際しては、自分の意見だけでなく、ヒアリング先の思いを、体験して、ドッキングさせ、+アルファしていきながら、もっといろんな人に投稿して拡散していきたい。
- ・3人でアンバサダーをしており、3人が一体となって発信できるといい。

(委員)

- ・三次市は観光コンテンツが多く魅力的なところである。個人的には第1回世界妖怪会議に参加し楽しんだが、このようないいところを広めていくのは必要なことである。
- ・だれでも”宮島は知っているだろう”と思うが、”宮島”を知らないが鳥居なら知っている”といったことがある。まずは、知ってもらうことが第一だと思う。そのうえで泊まっていたき滞在してもらうためには、個々のスポット開発も大事であり、また周遊も大事である。
- ・広島空港は台湾、韓国便があり、この利用客を取り込むことを考える必要がある。また、ハブ空港の関西空港や福岡空港は、広島空港と比較して海外だけでも便数が二けたも違い、インバンド需要が高い。これらの需要を取り込むため、三次市を含めて周遊してもらい、観光してもらうことも必要である。

(委員)

- ・地域の魅力再発見プロジェクトの行事で、広島修道大学の学生に何度か参加してもらっている。昨年は、ピアバイクを、吉舎で走らせたいと声が出ており、今年の10月の行事に実現できるようになった。このような学生の提案は、地域を盛り上げることに寄与するものである。
- ・外の人からの提案で地域のよさに気づかされる、また、発見ができるようになることも、魅力再発見プロジェクトのような活動でつなげていける。

(副委員長)

- ・以前は総観光客数を増やすことを目標にしていたが、今は、総観光消費額を増やすため宿泊促進に取り組んでいる。
- ・国や県、市、DMOの努力の結晶でもあるが、コロナ渦の中、入込客は減少しても消費額は毎年増加している。
- ・このような現象を踏まえると、総観光客数を増やすのではなく、地域の観光消費額をどのくらい増加さ

せるかということを目標にすべきである。もっと付加価値を上げて、魅力あるコンテンツを作れば滞在時間が増えていく。そのような戦略を考える必要がある。

- ・観光庁の資料にはないが、市外や海外からの客が何割占めるかといった入込率という考えがある。三次は6割、東広島は4割であり、三次市の方が率は大きい。世羅町は85%、庄原市は75%が市外であり、三次はまだ市外からの入込は少ない。
- ・もう一つ、人口に対して何人来ているかという人口対観光客数がある。京都は150万人に5千万人来ている。これは、京都が持つ魅力度ではないか。オーバーツーリズムとなるかもしれないが、たくさん来ると観光として成熟したまちといえるかもしれない。三次は40倍、東広島は6倍といったように、違う指標でみるとまちの魅力度は異なって見える。
- ・入込率や人口対観光客数で比較すると他市と比較できるので、強み、弱みが見え、次の戦略を考えるときの指標となるのではないか。

(委員長)

- ・観光は、閑散期が大きな問題となっているなか、平田観光農園では年間を通して楽しめる上、何本ものコンテンツ開発をするのであれば素晴らしい。
- ・お墓参りは地方では需要が高い。ホテル滞在も多く、宿泊と兼観光に繋がるとよい。
- ・食べ物に関して、日本人は食の観光が大好きなので、楽しく、様々な情報発信していただきたい。
- ・地域外の人たちからの提案をもらうのもよい。
- ・これまで、観光客数に偏重し、消費額を軽視してきた。その結果、オーバーツーリズムにつながってきている。人口に対する観光客数は観光密度というが、今、観光密度はオーバーツーリズム問題で用いられることが多い。田舎の観光では違う見方ができるというのは面白い。
- ・本日はインバウンドの話が先にあったが、三次の場合はもう少しインバウンドに力を入れてもよいのではという話題提供があった。皆さんはどのように感じたか。

(委員)

- ・台湾、香港などの東アジアの中華圏が多い。本日の話では欧米もポテンシャルがある。時間はかかるかもしれないが、人口減の中でインバウンドを軽視するべきではない。

(委員長)

- ・欧米豪は長期滞在が多い。広島は他都市に比べて欧米豪が多い。彼らは北海道や長野などではスキー滞中に人気がある。三次でも可能性があるのではないか。

6. その他

○第2回検討委員会では、観光戦略の素案についての意見交換を実施予定。

7. 閉会



写真 会議の様子